

夢・感動・ふれあいの樽前小学校

苫小牧市立樽前小学校 学校だより

かしの森

第12号 令和6年3月22日 発行

<樽前小学校の教育目標>

『豊かな心でたくましく生きる樽前っ子の育成』

- 自分から進んで学習する子
- いつも明るく思いやりのある子
- 心もからだもたくましい子
- ねばり強くがんばる子

学校評価の結果について

今年度も保護者アンケート、児童アンケート、地域アンケート、教職員における自己評価を実施し、課題をあげ改善策を検討しました。

その後、今後の方向性が妥当であるか、学校運営協議会委員の皆様には評価していただき、今後の学校運営改善のための指針とさせていただきました。

つきましては、今年度の学校評価について、各種アンケートの結果及び、今後の取組についてお伝え致します。保護者の皆様をはじめ、ご協力いただきました関係各位に、心より感謝申し上げます。

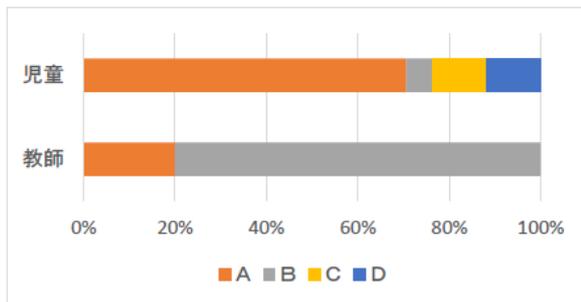
《各種アンケートの結果》

※A～よく当てはまる B～少し当てはまる C～あまり当てはまらない D～全く当てはまらない

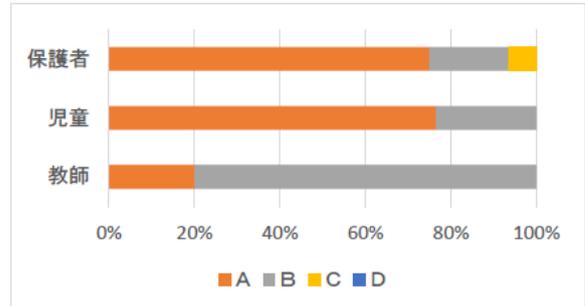


(1) 危機管理(1～6)

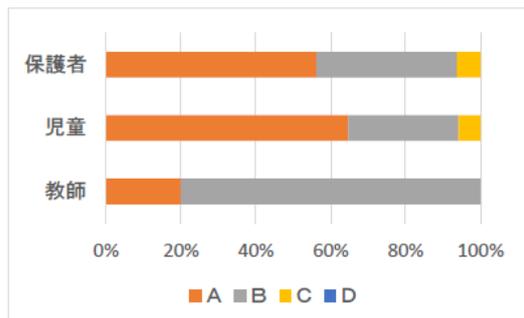
1. 自己肯定感・自己有用感



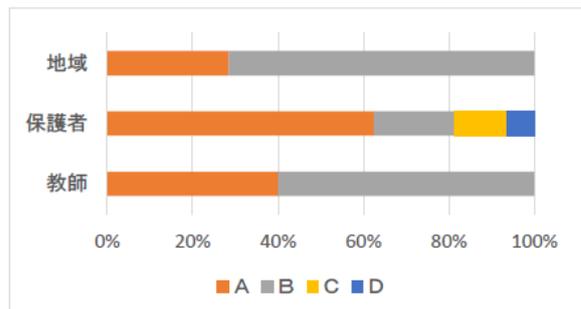
2. 交通安全、自然災害等に対する指導



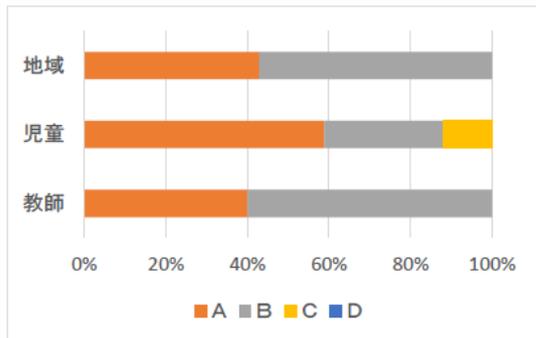
3. 登下校の安全



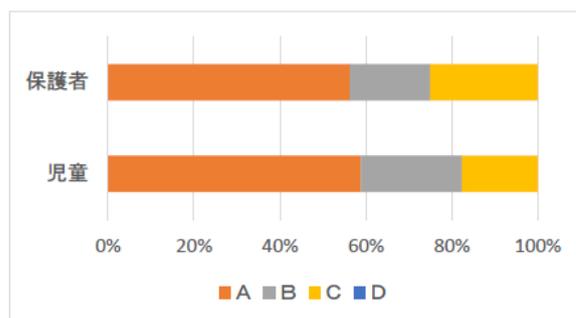
4. 施設設備の維持管理



5. 清掃・美化



6. 学校は楽しい



○評価の傾向

- ・「自己肯定感・自己有用感」については、職員自己評価は高く、児童アンケートでもAが70.6%と高い数値が見られる。しかし、一方で、児童アンケートでは、あまり当てはまらない、当てはまらないと答えている児童が23%を超えており、決して安心できる数字とは言えない。また、「学校は楽しい」かについて、児童は、あまり当てはまらないが17.7%、保護者アンケートでは25%であり、学校が楽しくないと思っている児童が4分の1程度も存在することがわかる。
- ・「施設設備の維持管理」については、自己評価と地域アンケートでは概ね良好な評価であるが、A評価よりもB評価の方が多いため意識しなければならない。また、保護者アンケートでは、A評価が多いが、C・D評価も多い。保護者が気になるのは、どういう箇所であろうか。学校に来るのは、子どもを観るためが大半であると考え、廊下や教室環境が思い浮かぶ。自分の子どもが安心して生活できる場、学習する場としてふさわしいかどうか保護者としてはとても気になることではないか。
- ・地域アンケートの記述にある枯れ木や枯れ枝の伐採・剪定については、教育委員会に要望として提出していく。

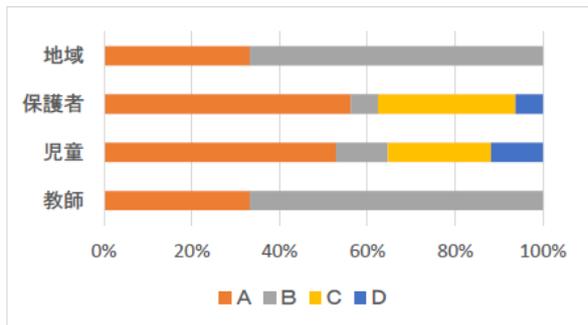


【改善の方向】

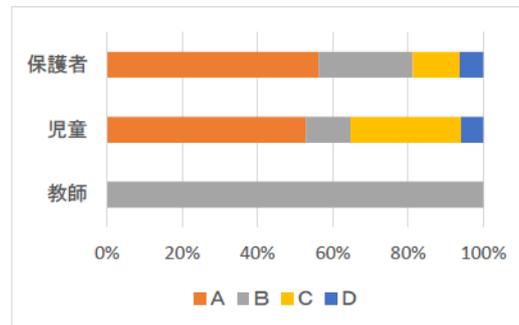
- ・児童のがんばりやよさ、成長を看取り、「ほめる」ことを続けていくことで、自己肯定感を高めていきます。教師のほめると児童のほめられるにギャップが感じられるときがあるので、教師がどの部分を評価しているのかを伝えていくようにしていきます。
- ・結果よりも過程や姿勢を認めて声をかけていきます。
- ・避難訓練は、春（火災）秋（地震・津波）冬（寒い時期の避難）の3回行っていきます。生活アンケートの結果からもわかるように、児童の安全意識は高まってきています。その一方で、避難の方法や情報を集約する方法など、今年度今までのやり方を見直すところが多かったです。引き続き児童の安全意識の向上とより充実した安全指導に取り組んでいきます。
- ・教室環境の整備については、清掃・整頓、掲示物を含め、児童が安心して学習や生活ができるように整えていきます。
- ・枯れ木枯れ枝については、市教委施設係には要望をあげていますが、限られた予算の中で緊急性のある樹木から手掛けていますとの回答でした。学校として安全点検と枝拾い等を実施し、継続要望していきます。

(2) 確かな学力(7~10)

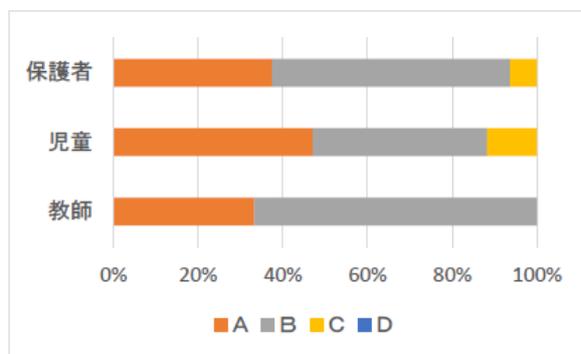
7. わかりやすく、楽しい授業



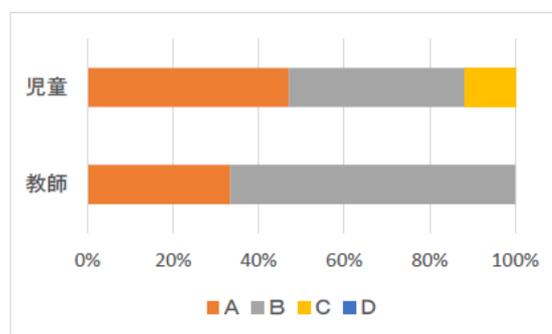
8. 主体的な学習態度



9. 家庭学習



10. 学習ルール



○評価の傾向

- 「わかりやすく、楽しい授業」について、自己評価は、児童一人一人に、学ぶ楽しさ・わかる喜びを実感させる授業の工夫を行うことが概ねできたという評価である。しかし、その一方、児童アンケートと保護者アンケートの結果を見ると、授業が楽しくない、わかりにくいと考えている児童が35.3%~37.6%存在する。半数近い数字である。学校では、これまで、研修等で学んだことを通して授業改善に努めてきたが、実際のところ、児童一人一人の（すべての子に）学ぶ楽しさやわかる喜びを実感させる授業になっているのか、再度、検証し対策を練る必要がある。学校は、子どもに学力をつける場であり、「わかる」「楽しい」と思わせるのは必然である。危機意識をもって指導にあたるべき数値である。
- 「主体的な学習態度」でも、自己評価と児童・保護者アンケートでは結果に乖離が見られる。児童アンケートにおいては、自分が主体的に学習できていないと答えている児童が35%を超えている。保護者アンケートからも良好とは言えない評価がうかがえる。今、行っている授業（毎時間）は、本当に「主体的な学び」になっているか、「対話的な学び」になっているか、「深い学び」になっているかという視点で見つめ直し、さらなる授業改善に取り組んでいく必要がある。
- 「家庭学習」は、取り組めていない児童がいることがわかる。児童への指導だけでなく家庭への啓発等連携した取組も重要である。

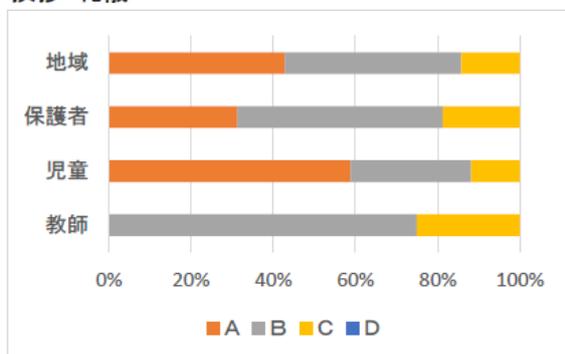


【改善の方向】

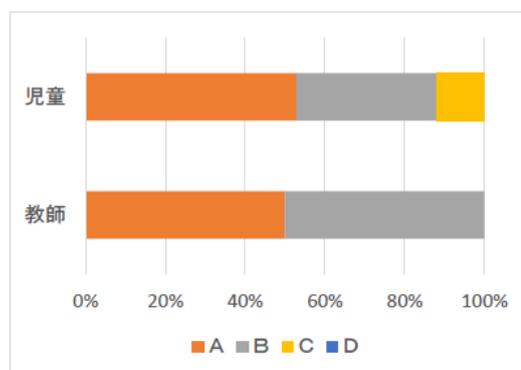
- 児童に学ぶ喜びを実感させる授業の工夫とともに、練習問題に取り組む時間の確保、学習したことを振り返ることができる課題（宿題）などにより、確実な定着を図っていきます。また、単元テストではない確認テストやプリントに取り組む時間なども設けていきます。
- 家庭学習や宿題については、共通して取り組むことと各担任の裁量に任せることを全体で確認して取り組んでいきます。また、月に1回ぐらい取り組んだノートの交流も行います。ドリルの答えを、あらかじめ、ドリルの答えを渡して保護者に管理していただく方法をとるなど、学習後すぐに〇付けをして見直す習慣付けを図ります。また、保護者と連携をとりながら家庭での学習習慣の定着を図ります。
- 学習の約束については、守れていないと回答している児童がいることから、4月の確認だけでなく、学期の初めや行事の後など定期的に確認を行っていくことで、ルールの定着に努めていきます。

(3)豊かな心(11~16)

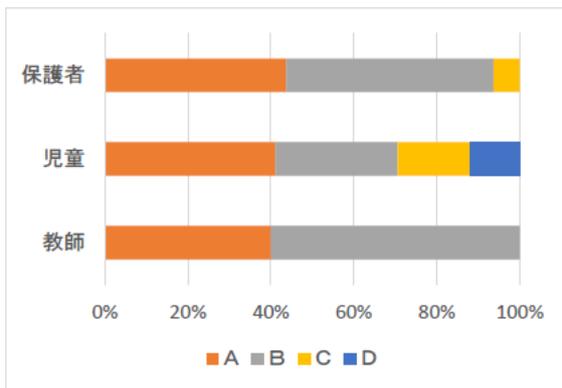
11. 挨拶・礼儀



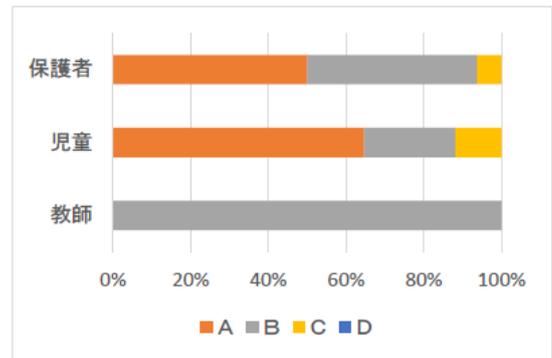
12. 安心できる学校・学級づくり



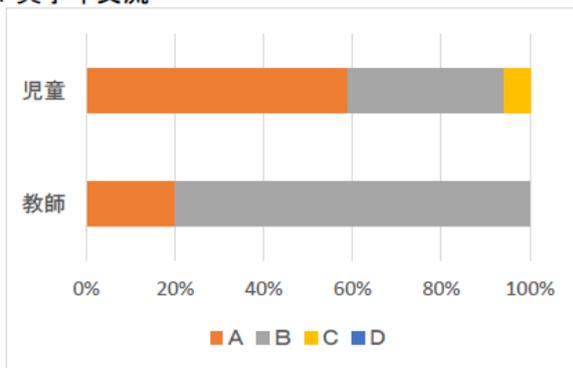
13. いじめへの対応



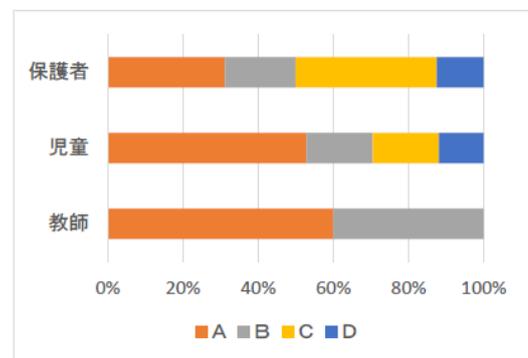
14. 道徳教育(生命の尊重)



15. 異学年交流



16. 読書教育



○評価の傾向

- 「挨拶・礼儀」については、4者一様に課題ありと評価している。学校では、この1年、挨拶の指導については力を入れ、少しずつではあるが自分から挨拶ができる児童が出てきたのは成果と言える。しかし、満足できる程度の成長が見られているわけではない。挨拶も礼儀も、コミュニケーションツールの一つ（人と人をつなぐ言葉）であり、社会や集団の中でより良く生きていく上で欠かせないものである。指導の改善がまだまだ必要な課題である。
- 「いじめへの対応」について、児童アンケートでは、困ったことがあっても相談できない児童が29.4%。結構いるということがわかる。今年度、いじめ認知件数1、不登校児童0であり、職員全員で児童を看取り、ささいなことでも情報を共有し指導に当たるという姿勢をとってきた成果とも言える。しかし、今回のいじめ発見は、児童本人が自ら不安を訴えることがなければ発見が遅れが生じ、もっと大きないじめにつながっていた可能性もある。こう考えると、困ったことがあったときに、児童自ら、まず助けを求め、SOSを出す、相談することができるかどうか、いかに大切なことであるかがわかる。児童への道徳教育もさることながら、いつでも気軽に相談できるような環境が求められる。
- 「読書教育」について、児童アンケートでは、読書習慣がついていないと答えた児童が29.5%存在する。研修部提案のもと全校で読書の取組を行ったことにより、読書への興味・関心の高まりの成果が表れているが、学校でも家でもと聞かれると習慣がついたとまでは言えない。

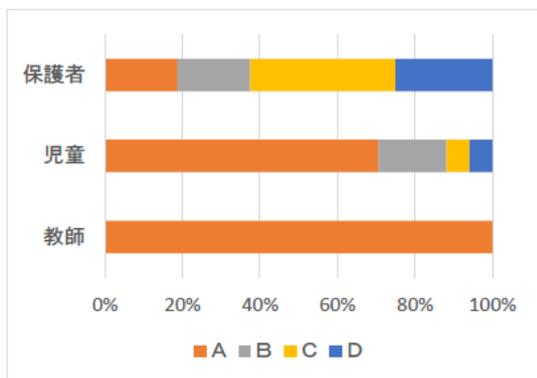


【改善の方向】

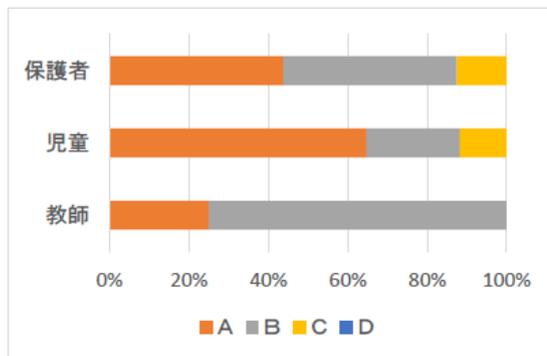
- 挨拶については、全校統一して取り組んでいて徐々に成果が上がってきています。児童会でも月の生活目標に入れながら、呼びかけてきました。今後は、挨拶の質にも触れながら、次年度も継続して取り組んでいきます。
- 夏休み、冬休み作品展の取り組みがよかったので継続します。キットなどではなく、しっかりと取り組んでいる作品が多いので、賞をつけるなど工夫して、意欲的に取り組ませよう努めます。
- いじめについては、年2回のアンケートと年2回の教育相談週間に取り組んでいます。ただ、児童アンケートにもあるように、まわりに相談できないと答えている児童が3割近くいることから、児童が安心して話せるように、ふだんから声かけをするなど、関係づくりをしていく必要があります。また、児童が安心して学校生活を送れるように、ささいなことでも情報共有し、一人ひとりの児童に寄り添う指導や支援について、より一層の充実を図れるように教職員全員で取り組んでいきます。
- 読書教育については、まずは、学校できちんと朝読書に取り組ませます。また、家庭へも協力をお願いしていきますので、ご協力をお願いいたします。

(4) 健やかな体(17~20)

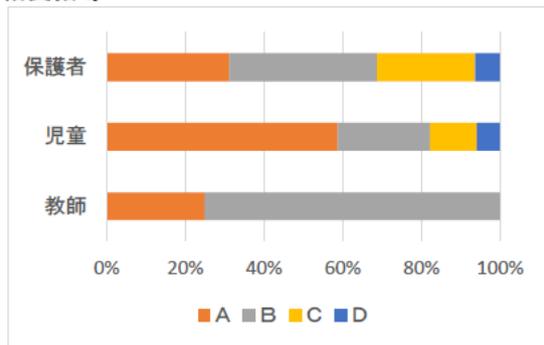
17. 体力作り



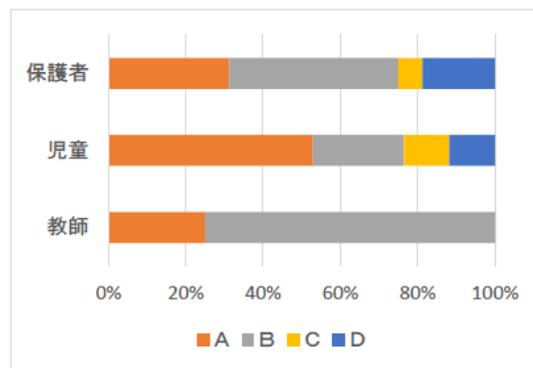
18. 健康衛生



19. 給食指導



20. 望ましい生活習慣



○評価の傾向

- マラソントイムやなわとびチャレンジ等を、全校児童で取り組めたことは、体育活動の充実につながったと考えられる。一方で、児童・保護者アンケートからは、児童が自分から（主体的に）取り組めていない実態が見られる。家庭と連携し、「学校で」だけではなく、「家庭でも」（学校と一緒に）運動や体力づくりに取り組んでもらえるように働きかけを強化、もしくは、働きかけの工夫をする必要があるのではないかと。また、このことは、「健康衛生」「給食指導」「望ましい生活習慣」にも当てはまり、児童の健やかな体づくりにおいて、家庭との連携が課題解決の糸口となりそうである。

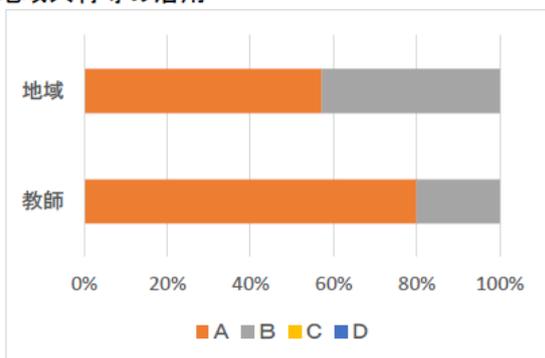


【改善の方向】

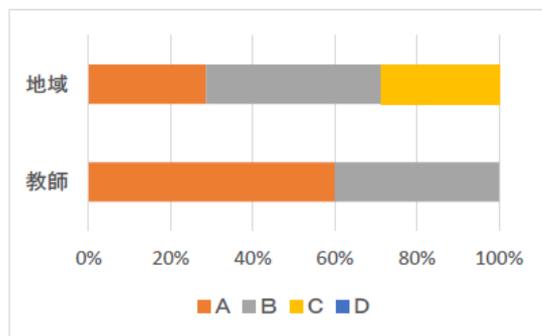
- 今年度、マラソントイムではマラソンカードを使用し、樽前小学校から函館に向かって、体育の授業での5分間走とマラソントイムで走った距離を記録していました。高学年は走った距離を自覚でき、意欲につながっていましたが、低・中学年は意欲につながらなかったことや年間を通して取り組むと体力向上につながるということから、次年度は、取り組み方法や年間を通して取り組み方の改善を検討します。
- 今年度、なわとびタイムの短なわとびでは実施方法の変更や昨年度の記録からの回数アップ情報をおたよりに載せるなどを行ったところ、児童の意識向上が見られました。なわとび検定では、自主的な検定を希望する児童が少なかったことやクリアできない技はクリアできないままの児童も見られたことから、次年度は、なわとび検定の取り組み方法や意欲向上の工夫などの改善を検討します。
- 生活習慣やメディアに関わる出前授業を行う場合には、保護者にも声をかけ参加してもらおうとも考えていきます。また、ノーゲームデー・ノーメディアデーの取り組みについて検討していきます。

(5) 地域・保護者との連携(21~26)

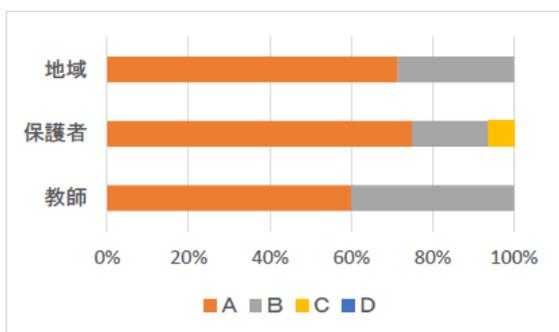
21. 地域人材等の活用



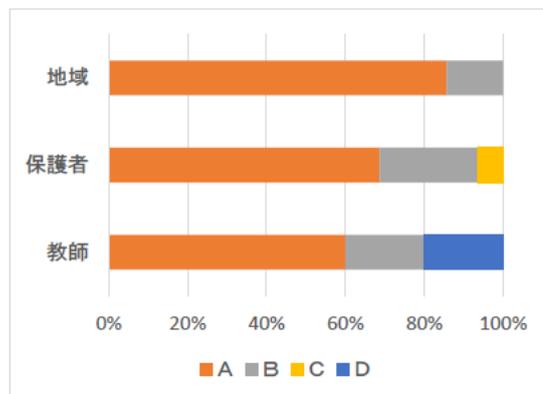
22. 地域行事への参加



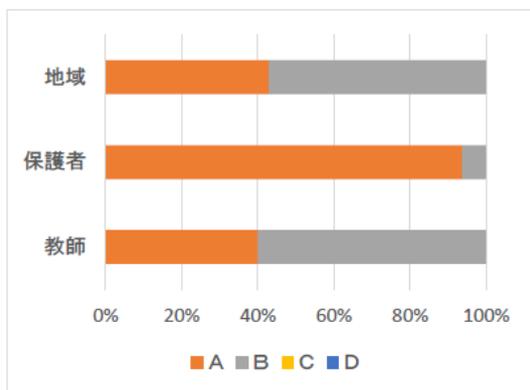
23. PTA、地域連携



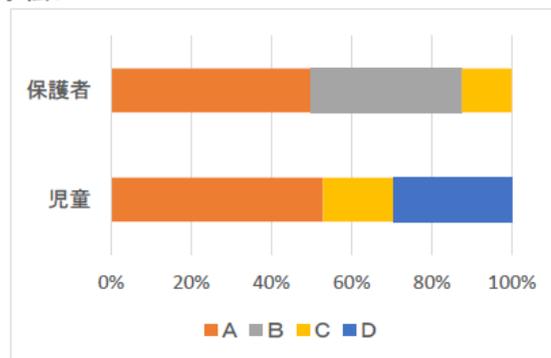
24. 情報提供



25. 教職員



26. 手伝い



○評価の傾向

- 概ね良好な評価を得られたが、「地域行事への参加」について、地域アンケートでC評価が見られた。地域行事への参加は任意であり強制ではないが、地域の方の思いや意図するところは何なのかを考えていきたい。
- 「情報提供」では、自己評価でD評価が20%。記述から、情報提供の手段のことと推察している。メール配信システムの活用は大変有効であろう。保護者・地域・関係機関が連携して子どもを育成していくためにも、教育活動についての適切かつ十分な情報提供は不可欠である。何が必要な情報なのか吟味し、また、伝える手段として何がよいのかは、検討していく必要がある。
- 「手伝い」については、家庭との連携が必要である。

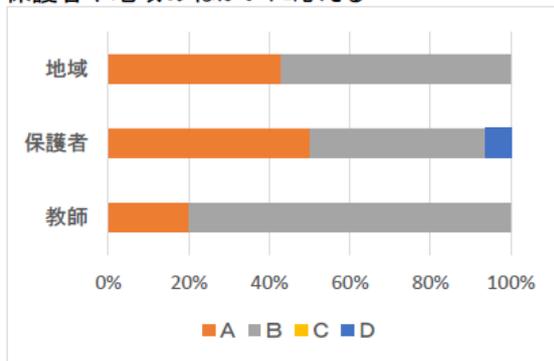


【改善の方向】

- 菜園学習では、地域の方の負担にならない範囲で畑の先生をお願いしたいと考えています。
- 保護者の菜園活用についても、継続を考えています。
- さくらメール配信システムの有効活用の方法について検討していきます。

(6)信頼される学校づくり(27)

27. 保護者や地域のねがいに応える



○評価の傾向

- 「保護者や地域のねがいに応える」において、保護者アンケートでD評価が見られた。アンケートの記述から、PTA活動の事と推察される。



【改善の方向】

- 今後も保護者や地域の声に耳を傾けるとともに、教育活動へのご理解とご協力をいただけるように努めていきます。

《保護者アンケート記述内容》

① 樽前小学校の教育でよいところ、さらに期待したと思われること

- 一人一人の自主性を考えて、取り組みを行ってくださっている様に見受けられます。期待することは、今までの教育方針を続けてほしいです。
- 子どもにとって、これ以上素晴らしい先生はいないのではないかと思うほど安心感と感謝で日々でいっぱいです。きちんと我が子の事を把握し、我が子の事を考え普通の先生ではそこまで想ってしてくれないだろうな…と思う事以上の事をしてくれ、一つ一つに愛情を感じます。学力に乏しい我が子の為に、ドリルを用意してくれたり、様々な物を手作りしてくれ、どうしたら理解する事が出来るのかをすごく考えてくれていて感謝しかありません。当時、入学を悩みましたが、このような素晴らしい先生が担任の先生になってくれて、入学させて良かったです。寒い日も暑い日も仕事が休みの日に迎えに行くと車の所まで来て子どもの様子や課題などを教えてくれそれもまた保護者として有り難かったです。全てにおいて愛情に溢れ毎日子ども達に接してくれてありがとうございます。感謝しかありません。
- 以前より勉強ができるようになってきました。少人数なのでひとりひとりが理解するまで教えていただけたところがとてもありがたいと感じております。担任の先生が変わってもこの変化を持続させていただけるよう期待しております。
- 先生に、子ども達と向き合う姿勢ややる気を全く感じません。子ども達の事をきちんと考えて教育してくれているのか…と日々感じています。懇談で先生が話してくれる内容と我が子話してくれる内容が違う事が多く本当にきちんと見てくれているのか不安になります。また授業もわかりにくいそうです。せっかく樽前小学校に通わせているのにこのような先生が担任の先生になってしまうのがとても残念です…もう少しやる気を持ってしっかりと子ども達と向き合っていただきたいです。
- 座っているだけの授業じゃなく子供が喜ぶような色々な体験をさせていただき感謝しています。担任の先生が変わってもこのようなことは続けていただけたらなと、期待しております。
- いつもありがとうございます。子ども達同士のトラブルがあった時、どちらの肩を持つ立場ではない教員が、「お互いの」意見を中立的に聞いて頂ける事を望みます。双方の意見を聞いた上で、解決策を指南頂けたら幸いです。
- いつもありがとうございます。色々な行事が復活して、とても楽しそうに参加していただけています。心置きなく卒業を迎えられそうです。
- 小さなことにも耳を傾け時間を割いてくださり、いつも感謝しております。担任以外でも、どの職員にも子どもに関した事全て相談できるので全幅の信頼を寄せています。水曜の特別授業？の提案も素晴らしいと思いました。すぐに学力の向上に繋がらずとも、地域の方や様々な職種の方を招聘した多岐にわたる学びとなるよう、期待しております。冬休みの学力サポートが無いのがやや残念でした。後期は少人数であることを最大限に利用して今後の中学校進学に向けて、より個々に応じた指導をお願いいたします。
- 少人数での生活に慣れてしまっているため中学生になった時少し心配があります。ここで体

験した事は本人にとってとても大切な時間になると思っています。来年度は一人になり色々心配もあります。

- ・町内と連携を取ってやっているところがいいと思います
- ・行事担当の負担が重く、また、人数がないなか、町内会の高齢化等、できないことはできない。としてほしい。無理が多い。知人に勧められる学校ではなくなった。

《地域アンケート記述内容》

① 樽前小学校教育で、よいと思うこと

- ・今年度より、学校と地域との交流が活発に行われていると思う。児童の笑顔が増えてきた様に思えます。
- ・自然をごく身近に感じる事が出来る環境の中での教育は何にも優る事と思います。この事をさらに発展してくれたら素晴らしいと！！
- ・昨年まで少し暗く感じた教職員や校内の雰囲気明るくなり、来校者に対し誠実な対応が感じられ、進んで地域に溶け込もうとする積極性が見られる様になったと思います。
- ・何時も大変お世話になっております。ありがとうございます。
- ・少人数の中、大変な事もあるが、より深い学び、工夫、自主性を得る事が出来ると思う。

② 樽前小学校の教育で、今後期待したいと思うこと

- ・樽前小学校に行きたい！と思ってくれる教育が市内保護者へ伝わる様に頑張ってください。
- ・今後も競争や管理教育ではなく、樽前の少人数教育の利点を生かした子ども一人ひとりの存在が大切にされ、子どもが育つうえで必要な教育とは何かをみんなで考えられる様な教育を望みたい。
- ・大人になっていく上で必要となる道德感の会得、何事にも挑戦する(やってみる)、その中で、様々な判断ができる様になればいろいろまちがえ失敗しながら、各自の得意を伸ばせればと思います。

③ その他（学校への要望・意見など）

- ・運動会に参加したとき、枯れ木や枯れ枝が多いと思った。万が一、直撃したときのことを考え、伐採・剪定したほうが良い。
- ・来年は新校舎になります。地域住民が今まで以上に学校へ行きやすい様になってくれるとうれしいです。
- ・特認校存続のための努力に敬意を表します！！樽前という美しく魅力ある地をもっと発信してください。
- ・学校だけで独走することなく（だけで悩むことなく）、父母や地域と気軽に相談、頼り（頼られ）ながら楽しい（子どもにとってだけでなく教職員、父母、地域住民も）学校づくりをお願いします。
- ・今年、久しぶりに運動会に参加しました。良い運動会でしたね！
- ・子どもたちの楽しいと思える環境を創ってください。

※以下、自己評価（学校内）のみ

（7）授業力向上

- 全項目で良好な評価となっており、特に、「活動の振り返りの場面設定、学習成果を実感させる指導」「他教科・領域との関連を図った意図的・計画的な指導実践」については、昨年度学校評価や前期学校評価に比べると大きな改善が見られている。研修部を中心に全校統一した取組を行ってきた成果と言える。しかし、実際に、児童に力をつけられているかという観点から再度見直したとき、より良い授業づくりに終わりはないということは誰もが知っていることだと思う。今後の研修にも、より一層の充実が求められる。

【改善の方向】

- (2) と同様
- 「総合的な学習の時間」では、今年度のかんじき体験の時のように、発表の視点を事前に確認し、成果が実感できるような内容になるとよい。
- リーダー学習の推進は、授業改善の切り口の1つであることは間違いありません。児童がスムーズに動かないのは、教師の働きかけが不十分だからでしょう。児童に何をさせたいのか、児童の力を伸ばすにはどうしたらいいか、授業を振り返り、どこを改善すればいいか考えて、不断に努力していくしかありません。研修でも、複式授業の進め方やリーダー学習の確認を改めて行います。

(8) 特別支援

- 全項目で良好な評価となっている。日常生活での関わりや看取り、情報共有等、全教職員で児童を育てていく視点が高評価につながったのではないかと考えます。また、生徒指導交流会の存在も大きい。

【改善の方向】

- 職員会議の生徒指導交流の中で、支援の必要な児童についての交流も継続して行う。

(1) 信頼される学校づくり

【改善の方向】

- 廃棄年限の過ぎた文書が多数存在する現状にある。改築を機に廃棄等を進めてきたが、文書管理する上で関係機関から大量に送付される文書と樽前小もしくは地域が発信者となった文書の保管年限は一律にならないと考えます。また、廃棄の際は^上⑥文書の取り扱いにも留意し適切な処理を心掛けたい。